飯山南コミュニティセンター　市長と語る会

日　時：令和６年１月 16 日（火）　 午後１時 30 分～3 時 20 分
場　所：飯山南コミュニティセンター
参加者：16 名
担当者：市長、地域担当職員　井下（秘書政策課）、塩田（広聴広報課）、中原（広聴広報課）

１．あいさつ

（市長）

本日はお忙しいところたくさんの方が集まっていただき、また、昨年も皆様方には大変お世話になったことを感謝申し上げる。また、本年も元気なまちづくりに丸亀市職員一同一生懸命取り組んでいく所存であり協力をお願い申しあげる。

１月１日に起こった大地震の災害について能登の方々のお悔やみとお見舞い、もちろん丸亀市としても、本気で全力を挙げて応援をしようと思っている。それと同時に、南海地震に対するきちんとした準備を整えなければいけないということを、つくづく感じているところである。

今、丸亀市長は私がさせていただいて３年目であり、まだまだやらなければいけないことはたくさんあり、今日このように集まっていただいている地域の方々の、いろんな意見を聞いて、そしてまたご指導いただきながら、これからも丸亀市がますます発展していき、市民の福祉向上がますます良くなるように取り組んでいこうと思っている。本日は、どうぞ忌憚ない意見をお聞かせ願えればと思っている。

（会長）

新年早々、市長と語る会の開催をさせていただき感謝申し上げる。今市長からお話があったように、能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福、また、被災を受けた方々のお見舞いと１日も早い復興を願っている。私の方も玄関に募金箱設置し、できるだけの支援をさせていただきたいと思う。２日には日航機と海保機の炎上事故が起き、続けてあのようなことが起きることは考えられないことであるが、今年の干支が辰ということで、辰は良い方向に向かっていくということを信じて気を取り直し、飯山南コミュニティの発展のために頑張らなければならないと思っている。

この機会に、2 つのことだけお話をさせていただく。4 年に１回のうるう年ということで、1989 年ジョージブッシュ大統領が立候補した時に「ポイントオブライトケア～灯を起こそう」と、選挙活動の１つに据えた。５人の支持者が、全国の企業や国民に対してどんなことをしたらいいか、ボランティアはどんな活動ができるかということで、全国に電話で発信した。アメリカでは、うるう年の１日は大統領から国民全ての者がボランティア活動を行い、活躍した国民をホワイトハウスに招いて、表彰したことがアメリカのボランティアの始ま

りということをアメリカへ研修に行った先の研究所所長からお聞きした。日本は、阪神淡路大震災がボランティア元年と言われており、ボランティア活動は非常に大切であって、できることを何でもやろうというボランティアの人と、技術的な、実費支援の有償ボランティア、そういう分かれ道に地域もきているのではないかなと思う。

アメリカの場合は人を称えるといった文化であり、日本はどちらかと言えば、私はこんなことをしたとあまり偉そうに言うと他からバッシングを受けるという恥の文化がずっと根づいてきている。しかし、実際にいろんなボランティア活動において優れた活動については称えていかなければいけない。それがボランティアのなお一層の発展に繋がるのではないかということである。

昨年11月に島根県松江で中四国の社会教育研究会があって発表をさせていただいた。「まちづくりと社会教育」で、4分科会があり、島根県の海士町と2つが発表をした。海士町の発表者は、10軒ほどの地域へ移住し、生活している者だったが、1人だけがプレゼンするのではなく、3人4人やって来て、1人の発表に対して、“あの方は他から住んできて祭を起こしてくれた、地域の活性化に役立った”と職員や地域活動の自治会長など一緒になって応援する。丸亀市内で見てきたプレゼン発表とは異なる、このかけ合いをしながらプレゼンする凄さというものを感じた。

私は「法の郷いきいきまつり」ここでの「まちライブラリー活動」、「コミュニティだより」の 3 点に絞って、いかにして社会教育とまちづくりをくっつけるかと考えながらプレゼンした。その中で感じたことは、ここでのリハーサル時から言われていたことでもあるが、外に出たときは、自分の経歴などを言わなければ信用してくれない。しっかり聞いてもらうためには、やはりそういうＰＲが大事だということである。丸亀市の瀬戸内の島々、お城や飯野山のＰＲをする中で、自分のことは言いづらいが、しっかりと聞いてもらうため、ここで 3 期に渡り教育長をしたことなどいろいろなことを振り返りながら発表をさせていただいた。

第4次まちづくり計画の70項目全てに注力しながらやっていくということは、地域課題が山積しておりなかなか難しい。市からは様々な依頼があり、その体制がなかなか整わない中、地域課題に取り組んでいる。そこのところで、市はしっかりとした指導をして欲しいと感じている。島根県での発表の際には担当課長が来てくれ、分科会をずっと聞いてくれた。私の分科会には100人ぐらい来ており、プレゼンに対する質問もあり、本当に信用してくれたが、海士町との違いは、いかに自分達がやっていることをうまく表現するか。これからの若い人には絶対必要だと感じた。

この2つを後のお話でさせていただこうと思う。同席いただいている、真鍋議員、竹田議員には市との橋渡しということで、いろいろとアドバイスをいただきながら、地域の発展のためにお世話になっている。感謝申し上げ、最初の挨拶とさせていただく。

２．第１部　コミュニティ活動の紹介・意見交換会

【コミュニティ参加者の紹介と市出席者の紹介】

（所長）

本日の会は、二部構成となっている。1部はコミュニティによる地域の紹介で、20分ほど冊子を元に最近の活動と来年度から始まる第4次まちづくり計画の紹介。その後、協議会の抱えている問題として、各種構成団体の弱体化、新たな人材確保の手法、地域担当職員制度などについて意見交換を行う。2部は、地域の課題としてテーマの中から、支えあい地域福祉について意見交換を行う予定でよろしくお願いする。

飯山南地区の人口は12月現在で6068人。世帯数は2367世帯。高齢化率34%。自治会加入率は 56%。法勲寺や讃留霊王古墳などがあり、古くから稲作が行われ栄えており、国道438号線の発掘調査でも多くの出土品が出ている。地域はこのバイパス道の整備により、今変化のときを迎えている。

経営方針は2つあり、生涯学習の場と地域づくりまちづくりの場。生涯学習の場では、人間性の充実の場づくりを目的とし、コミュニティの果たす役割が大きいと思っている。また、地域づくり、まちづくりの場では、地域課題に地域みんなで取り組み、よりよい生活環境を作る住民主導型、つまり住民自治の実現を推進している。

最近の施設の利用状況は、移転とともにコロナ感染症が拡大し減少したが、今年度は 12月現在の利用人数が1万4532人。利用収入が67万2300円となっている。生涯学習講座は、毎年春に募集を受け付け開催。生涯学習の場づくりとして、いきいき講座、生涯学習クラブ、子供茶会、書道教室など、年間を通じて行い、有料の団体サークルも多く受け入れている。また単発で人権講座やスマホ教室、地域歴史講座や健康講座なども開催している。

地域づくりまちづくりの場の紹介は、大きく8つに分けている。1、世代を超えた交流の場、2地域の憩いの場、3、身近な情報発信、4、居場所づくり、5、健康づくり、6、学校支援、7、高齢者との関わり、8、防災活動。

本日は、1の世代を超えた交流の場のいきいきまつりの活性化と、2の地域の憩いの場法の郷公園の一体的活用をアーカイブで紹介する。

まず、1 については『法の郷いきいきまつり』。新旧の地域の人々が地域特有の歴史や文化を体験する機会や、同じ時間を共有し、そこでつくり出される一体感を感じてもらおうと、歴史、文化、人、未来など、テーマをわけて取り組んだ。冊子の写真を見ながらテーマ別に紹介していく。

〔歴史と出会う〕。地域の伝統芸能など披露。小学生の浦安の舞、飯山中学校の坂本念仏踊り、地元の太鼓おじょも太鼓。その横のページは、飯山南地区が米どころということを広めるために、子供を対象にお米100グラム手ばかりチャレンジを開催。お米に触れ身近に感じてもらうために企画した。

次に〔文化と出会う〕。茶道、華道、書道、俳句や小中学生の作品の展示。

次に〔人と出会う〕。飯山南小学校の音楽クラブや生涯学習生が、多くの方の前で発表できる機会を作っている。また、飯山高校生と飯山中学生の吹奏楽のセッションは、毎年みん

ながとても楽しみにしている演目になった。高校生の書道パフォーマンスや花生けバトルも普段を見ることができないので、大盛況であった。地域の世代を超えた交流として、メダカすくいやヨーヨー釣り、バルーンアートなどで子供たちと交流した。福祉ママのチャリティーバザーや食生活推進委員のバザーなども大盛況であった。

〔未来と出会う〕ということで、高校生とうどん店がコラボして運営した今年の目玉企画。メニューの開発から売り方まで自分達で考えた社会体験活動である。また高校の放送部も昨年からアナウンスに参加してくれている。消防団や警察の車両体験や、安全体験車との触れ合い。また館内では、健康相談や移動手段確保事業等の相談会やクラフト教室、絵本の読み聞かせなどを行った。

最後は地元の企業に協賛いただき、コミュニティくじの抽選会を行った。まつりを終えて、高齢者や子育てが一段落し、子供と接する機会が減ってきた世代と、児童や生徒が交流したりお互いの活動を見ることで、絆づくりの一端を担えたのではないかと思う。また、学習の一端を披露することで、学校と地域社会の繋がりがより強くなり、地域とともにある学校づくりができていけばと思っている。

次に、2　地域の憩いの場として、昨年 7 月 1 日に完成した法の郷公園では毎日のトイレ掃除を近隣の住民の方がボランティアで行っている。昨年の猛暑での水やりは、毎日ボランティアの方が 1 日 2 時間あまりかかった。花壇の花植えや公園の草抜きも地域で定期的に行っている。また、コミュニティと公園の一体的活用として 10 月 29 日のいきいきまつりの様子は、子供たちの笑顔が最高である。普段もたくさんの子供たち、特に小さなお子さんとお母さんの来園が多く楽しんでおり、シンボルツリーや芝生広場もよく利用されている。

以上が、最近の活動となる。では次に、法の郷第 4 次まちづくり計画について会長から説明する。

（会長）

それでは、第 4 次まちづくり計画について。第 1 次計画から 3 次計画まで行ってきて、今年が第 3 次計画の終わりの年である。今、第 4 次計画を 7 月に諮問をして、3 月 8 日に答申を行う。

第 4 次計画は、令和 6 年から令和 10 年となっており、「みんなで育てる住みよいまち法の郷」ということで、アクションプランが 6 つある。部会別の役割として、6 部会と実行委員会それぞれ下側にテーマが出ている。その下に具体的テーマを出している。一覧表で体系図のコピーをつけている。スローガンが上に出ており、次に 6 つのアクションプランということで、1 が魅力ある法の郷らしさ、2 が命と暮らしを守る安全安心、3 がともに支えあい健やかに暮らす。4 が健康とスポーツで元気いっぱい、5 が楽しいが見つかる子育てと文化。6 が市民参加情報まるごと発信。18 のテーマと 70 の具体的テーマがある。それを 5 年間で進捗を確認しながら、年毎の目標に向け各部活動していただく。

飯山南コミュニティは、防災以外はたくさんあるコミュニティのなかでどこにも負けていない。例えば、まちライブラリー。最初は市からの誘いかけで始まり、市は城坤を主体と

して会を設けていたが、講演会や会には欠かさず参加した。

一番良かったのは、○○さん達を中心にしたメンバーで毎週水曜日と土曜日、1日も欠かさずに9時から5時まで半日交代で当番表を作って、本の貸し借り、整理、それとおすすめの本、いろんなプロジェクトの行事などずっとやってくれた。これは絶対に誇れるものであり、去年の夏に発表させていただき、まちづくり大賞をいただいた。

それぞれ1つずつ取り上げても素晴しい活動をしているが、自分で評価していなかった。それではつまらない。福祉関係では支えあいとして散髪までやっている他、ゴミ出しから屋敷の草抜きなど。高齢者等の移動手段についてもモデル事業から始めている。なぜそこまでしなければいけないのかと常に言われるが、これは地域の課題である。少子高齢化ではなく、地域課題であり、それだけの体制がないけどやるということは、非常に大変であるが第4次計画では、地域課題を解決するための手段というようなことで取り組んでいく。以上である。

（所長）

質問に入っていく。組織の弱体化について会長からお願いする。

（会長）

合併してから19年に入るがその間でものすごく変わった。変わっていないのは市の指導で、結論から言えばそこである。変わったことは、冠婚葬祭から地域の繋がり、地域の絆というものがどんどん無くなり、自分の生活等を守っていくということで地域活動に参加していただけない。誰が退職して誰が地域に関わってくれるかという候補者を見つけることが本当に大変である。

1つ大きい原因としては、子供会や婦人会、それから上はいても下が全然いないという各種団体。コミュニティ協議会で29の各種団体が関わっているが、大体1人。警察の地域安全推進委員会、交通安全推進も、全部会長出てくださいということで下は1人もいない。そういう組織が29あるが、動いてくれているのは自治会、婦人会。今から女性活躍社会といって国をあげて一生懸命やっているのに、なぜ丸亀市は婦人会をつぶすのかと言ったが取り上げてくれない。地域を支えているのは本当にきめ細かな女性の活動ということもあって、絶対つぶさないということで伝統を引き継いでこられた女性部は、今日も来ていただいているが、婦人会から女性部に置き換えて存続させた。敬老会を始め、いろんなことに活動していただく。

そういうことで、各種団体が弱体化し、各種団体から成立したものが部会。6つの部会で1つの部会は20人、120人ぐらいであるが、その活動をどうしているかというと、自治会長は毎年変わるが、自治会長の中でこの人はできそうだという人を私が 1 人ずつ説得に行き部会に入れる。そういった補充方法しかない。一昨年、徳島の津田町を視察したが、あそこは各種団体の力が強い。各種団体の活動が即、結びついて拡がったものがコミュニティの活動に繋がるという方針。しかし、県内、特に丸亀市の各種団体が、上はいても下がいないという状況、それからＰＴＡはやはり自分の仕事と学校支援がいっぱいでコミュニティになかなか力を貸してくれない。

高齢化と各種団体の弱体化ということで、考える時期が来ている。コミュニティ協議会方式になり19年たった今、考え時である。他市のように、まちづくり協議会でやる人を寄せて、そこへお金を出して、活動しやすくする方法もあるが、そこには欠点があり、やりたい人だけやり、拡がりまでいかない。住民がどれだけついていくか。今の方式、私は良いと思う。しかし、どういう風に人材を確保するかということは一緒に考えて欲しい。結論はすぐ出ないと思うが、市長、どうぞよろしくお願する。

（市長）

今会長のから言われたようなことがどこの地域も課題であがっている。次の担い手となる若い人たちがなかなか出てこないということである。自治会の加入率は毎年丸亀市全体でも下がってきているが、自治会というのはやはり近所の繋がりの一番大事なものであることから、加入率が下がっていくことは本当にどうにかならないものかとずっと思いながらも、ここ20年ずっと下がり続けている。

丸亀市として、はっきりとした答えは出ていないが、各自治会に1軒当たり300円、10軒であれば3000円という自治会への助成や、その他にもいろいろ自治会長手当などがあるが、まずはそのあたりの金額を少し増やしていき、いつまで、どこまでお金を出したらいいかというのは、先ほど会長も言っていたように、皆さんと話し合いながら考えていくというのが1つ。

自治会やコミュニティに市からいろんな仕事の依頼やお願い、そして各種委員の推薦をコミュニティから出すよう依頼がきており、対応するのも大変ということは承知している。会長が言われたように、過渡期であり、今の丸亀のコミュニティ活動の形である。

飯山南コミュニティは、見本となることをたくさんしていただいていると考えている。例としては、このようにコミュニティで公園を管理していただいていること。郡家地区と城南地区がコミュニティで公園を管理すると今手を挙げてくれているので、飯山南を見本としていきたいと思っている。いろんな要請が行政からくる、手が回らなくなった状態にどんどんなっている、そして次の若手・担い手がいない、というのが現実。それをどうしたらいいかというのは、やはりそのコミュニティの活動自体が楽しい、行きたいと思えるような事柄を作っていったらと思う。

先ほどの説明にもあったが、生涯学習は、何歳になっても生涯何かを学ぶ、学習をするということであり、住民が興味を持っているものがあれば行き、そこから地域の活動に参加することに繋がるので、生涯学習の学びの場というところは大切にし、丸亀市でもしっかりと取り組んでいきたいと思っている。

それともう1つが、飯山市民センターと綾歌市民センターがあるということ。センターの雰囲気は落ち着きがあり、職員も生き生きとしているので、市民センターは大事にしたいと思っている。飯山の方々は気兼ねなくどんどんセンターを利用し、職員にいろんなことの相談やお願いもしていただくというようなことがもっと進んでいくことが行政と市民との共創になると思っている。また、センター職員のやりがいとなる仕事にもなっていくと思う。

1つは、今も楽しい取り組みをたくさんしていただいているが、自分も参加しようという気持ちになる楽しみ、生きがいになるような活動を一緒に創り出していただき、年配の方々や大先輩の役員の方々が、仕事ばかりにならず、多少の労働はあっても重荷とならない楽しめるような活動がもっと出来ればという風に思っている。具体化するには、また皆さんと一緒に考えて作っていきたい。あまり回答になっていないが、今日言われた時代のちょうど変革期というのは、十分職員たちも思っているので、またご指導をよろしくお願いする。

（会長）

承知した。では、順次質問を続ける。

（所長）

続いて、飯山南の取り組みについて会計担当から質問する。

（コミュニティ1）

松永市長には公務多忙の中、飯山南コミュニティ市長と語る会にご出席いただき感謝申し上げる。せっかくの機会を得たので、コミセンの活動とそれを支えるボランティアスタッフの現状、課題について私なりに述べたいと思う。

地域住民に対して、様々な活動について真摯に前向きで取り組んでいるコミセンと、受け身で取り組んでいるコミセンとの行政側の評価の問題。活動が多いほど、人・物・金も多く必要となってくる。当然、投資対効果の検証は不可欠だが、もう少し担当部局とは意思疎通を図りつつ、資金配分にも工夫が必要ではないか。先ほどから出ているスタッフの高齢化、退職年齢の引き上げ等、ボランティアスタッフを取り巻く環境も良好とは言えない。2040年には、地方公務員数も必要数の8割という8掛け社会の到来の記事が新聞にも出ている。行政サービスの低下が懸念される中、行政サービスの末端を担っているコミセンボランティアにはもう少しインセンティブが必要ではないかと考える。これらについて市長はどのようなお考えをお持ちか。

（市長）

たくさんの活動を積極的にやっているところと、受け身のところ、ここの区別をどうはっきりつけて、活動費の資金配分等もどう考えるかということだが、活動が多いやる気のあるところに資金配分をするというのは正しいと思っている。ただ、行政としては、ここはたくさんやっているから多くして、ここはあんまりしていないので少なめに、とはなかなか打ち出せないというのも現実的にあり、ほとんどが一律的な助成金になっていると思っている。

国もやる気のあるまちは交付金を取りに来いという方式が一時期からずっとあり、今も私は国に一生懸命取りにいこうとしている。今言われたようなことは、どこまで現実化できるかというのはまた別として、そのような形にしていったほうが良いと思っている。

（コミュニティ1）

期待している。

（所長）

では続いて、地域担当職員制度について。

（コミュニティ 2）
丸亀市は、地域担当職員制度を設定されている。職員の皆さんは通常の業務が多忙な方々ばかりだとは思うが、実際にそのような方々がコミュニティに関わっていただくことは、なかなか気の毒な部分も多分にあるのではないか、時には忙しくて行事等にも参加しづらい部分もあろうかと思っている。他のコミュニティとの会合の折、意見交換をしたときにも同様の話が出ていた。できれば、難しいとは思うが、実質的に行動が可能である方々にコミュニティの活動にぜひ関わって欲しい、そういう方々にお願いできればという意見である。
（市長）
地域担当職員について同様の意見を聞いたりするが、コミュニティへの常駐として市の職員を配置することは大変難しいと考える。元々地域担当職員を作った 1 番の目的は、市内各コミュニティに市の職員も役員会や会合などに出席して得た情報を、市の方で全部吸い上げ、全体で共有した中で、横断的な地域政策の展開にそれを繋いでいくことであって、それを実際やっている。そういうことをもっと展開していきたいと取り組んでやっている。
今日も地域担当職員が 1 名来ているが、土・日に私がほとんど仕事をしており、今日の職員が一緒に出勤してくれている。そのような体制でなかったら、もう少しこちらのコミュニティに出てこられると思っている。
（会長）
重々承知している。
（市長）
私が市長になってから、職員の仕事はものすごく増えているのがわかる。そういった中で、地域担当職員としてコミュニティに出ている職員の活動状況は、本来の担当業務によって様々ではあるが、職員の能力向上としても直接、一緒に行動し、仕事をすることがプラスになっていると思っている。なるべく地域担当職員が積極的に参加をするような方向にしたいと思っているが、それは強制的にではなく、自発的にという形が正しいと考えている。
ただ、コミュニティの活動に参加することはものすごく良いことだと、職員には再度徹底して言っていこうと思う。
（コミュニティ 2）
答えにくいところもあると思う。感謝申し上げる。
（所長）
その他に質問がある方はどうぞ。
（コミュニティ 3）
このような機会はなかなかないので私の方から 2 点ほどお伺いしたいことがある。文化育成部の部長と地域コーディネーターをしている。
最初の 1 点は、地域住民としての意見だが、ごみステーションの設置のことに関して。ここに住んで 30 年経つ私の体験だが、最近すぐ横に新しい団地ができて、そこのごみステーションが、うちの団地の方の洗濯を干しているすぐ横に設置された。その家の方は市の方に、

どうにかならないかという問い合わせをしたが、ごみステーションを移動することは難しいと言われ、私がこちらのコミュニティに相談に来たら、「新たにごみステーションを設置する時はコミュニティを通すようになっているから、その時どうにかなるか相談に乗る」と会長から言われて、お願いし待っていた。結局コミュニティセンターにはその要請がきていない。

洗濯を干す場所の横なので、業者の方もすごく頑張ってくれて、ゴミが見えないようにブロックを積んでくれたと思うが、その団地にはまだ家も建っておらず、ごみを捨てていないから臭いもないが、いざごみを捨てるようになった時、夏場とかに全く臭いがないのかどうかはわからない。市でそこまでを管理するのは難しいと思うので、コミュニティセンターを通して設置をするようにしていただけたらもう少しきめ細やかにできるのかなと思う。

あと1つは、地域コーディネーターとしての意見だが、飯山町は今、飯山中学校区地域協働本部で、中学校を拠点として3つの学校が一緒になって学校支援を行っているが、多分その形をとっているのは飯山だけである。他の地域は小学校区毎に協働本部がある形になっていると思うが、やはり今は学校毎に取り組み方が全然違っていて、市からいただいている予算を小学校毎におろしていただけた方が、私達 3 人のコーディネーターが南小で活動しているが、やはりその活動毎に必要な予算もある。

小学校毎に予算をおろしていただけるのは可能なのかをお聞きしたい。

（会長）

市は中学校区で予算おろしているから小学校毎には分けられないとのこと。香川県の教育委員会の方針としては、中学校区があっても小学校区の両方を置くことは可能であると、ちゃんと書類が出ているので、別にしたらどうかと言ったら拒否された。

小学校区を認めているところは今9つぐらいあると思う。小学校の地域学校協働本部は。私の方が正式に設置して、今 2 人は地域コーディネーターとして文化育成部の部長と副部長が小学校と常に1ヶ月に1回、校区内の教頭や校長とコミュニケーションをとりながら、1年間の行事で完全なる学校支援をやっている。

しかし、北小学校は地域学校協働活動本部がない。中学校区にあるからといって作ってない。だからあなたのところにあげられないと、こういうことではっきり言われているがそれはおかしい。

（コミュニティ3）

ちゃんとお金はいただけているが、やはり独自にこちらに予算をおろしていただいたらもっと活動もスムーズになる。中学校区はちゃんと活動しているので、それをどうこうするのではなく、それを置きつつ、南は南で独自に今すごく頑張って支援しているので、それを認めていただけたらすごく嬉しいなと思っている。よろしくお願いする。

（市長）

今2つのことは、きちんとこの場でこれをこうするというところまでは言えないが、まず1つめのごみステーションのあり方は、実際ごみステーションがあってそのすぐ近隣の家と

いうのは必ず迷惑がかかるのは確かである。それはケースに応じて、行政が入ってもいいと思う。今クリーン課のごみ収集は、ものすごく優秀に仕事をしており、そういう問題等には、職員もかなり考えてくれると思っている。今のケースについては、行政の方に話をしたのか。

（会長）

この前、会長会で言った。それまでは、新たに自治会を作ることによってごみステーションを置くことはコミュニティを通していたが、最近は通さずに全部できてしまう。クリーン課、生活環境課の方から、指示はしていると思うが返事はきていない。

（コミュニティ 3）

飯山市民総合センターの方には相談に行ったようだが、場所を動かすことはできないという現状だと思う。

もともと 30 年前からある団地横の田んぼが最近売りに出て 10 軒ぐらいの団地として出来たごみステーションで、公園が中にあるからそこへの設置は難しいかとその方が聞いたところ、道が狭くてごみの収集車がバックで出なくてはいけないので、この道沿いじゃなかったら難しいと言われた。反対側の方に設置してくれたらそっちは田んぼなのでよかったのかなと簡単には思ったが、あえて家のある方にごみステーションができたので、どうしてだろうと。ただ、もう工事もしてしまって出来上がっている。

（市長）

これは持ち帰らせてもらい、何らかの形でまた報告する。

（会長）

私の方にも相談に来たときに、必ずここへ要請が来る時に〝そこは不適だと言う“と言っていたが、知らない間に出来てしまって売りだされている。

それともう 1 つの中学校区の件はきちんと活動しているが、事務局が北にある。こちらの方にも初めから予算配分してくれたらいいと思い生涯学習課に相談したが、それは頭から中学校区に例えば 60 万とか 70 万出しているから、その中で分けてもらえばいいことであるというようなことで受け付けてくれない。

（コミュニティ 3）

今は請求書を持って、その都度どちらかが精算しに行くという形をとっている。

（市長）

それは中学校の本部へ？

（コミュニティ 3）

北コミュニティへ。

（会長）

事務局がそこに入っているので。

（市長）

了解した。

（会長）

私も中学校協働活動本部の会には行くが、内容が偏りすぎている。コーディネーターはものすごく辛いと思う。実際小学校だけでやっている他のコミュニティは、全てそこへ30万か40万おりている。私方も20万でもいいからくださいと言ってもくれない。

（市長）

これもまた持ち帰って話をしてみる。4月の予算編成が大詰めであるが、少しここで話をさせてもらうと、私は職員全員が政策集団だということを、市長になってから言っており、まちづくりや政策について、20代の職員や多くの職員からも、どんどん政策が上がってきている。その分膨れ上がる予算をどんどん削らなければいけない。その作業も今やっている。

来年度予算方針のひとつとしては、協働によるまちづくり。これは市民と行政が、または民間と行政が、民間の団体と行政が一緒になって働く、一緒になって仕事をする、それが1つのテーマと考えている。

あと1つは、3年と4ヶ月、行動制限が取れただけでコロナはまだあるが、行動制限が取れた中で、全国的に不登校の子供が2倍～3倍になっていて、これは丸亀市も全国と同じような平均的な数で増えている。ここへは予算を投じてでも取り組まなければいけないということで、限られたお金ではあるが、教育にはお金を惜しむな"、"まち全体が学校"ということをずっと言っている。また後程、ご連絡させていただく。

（会長）

第2部の方は、全部活動しているが、どれか選んでくださいということで「地域の支えあい」を選択しだ。今から言うことに対してまたご検討いただきたい。

先ほど言ったように合併して19年、飯山町時代からは60年になる。合併して担当の方が、生活課から市民活動推進課になった。いい名前をつけて、地域に力を入れると思っていた。その後、生活環境課になった。生活が上についたので、生活や、地域の方に目を向けてくれると思っていた。先に市長にお礼を言わなければいけないが、公園を第1号で作っていただき感謝している。

もう1つ、今の学校教育で得られない年齢を超えたそれぞれの体験は、児童センターが役割を担っているが、東は児童センターが飯山にあり、南の方や川西、郡家、垂水からも来て利用していただいており、南は児童センターの役割というのは非常に大きいと思っている。新しくできる『みんなの劇場』には、児童館が部屋を取られているが、それが劇場内の児童館の役割というものをしっかり果たすものとして、丸亀市中心と北市街地が連携して、全てそこで仕切ってくれて、飯山の児童センターが南部のセンターとして児童館の役割をその中で担うと思っていたが、それは目的が違うということである。そうであれば児童センターの南部としての役割として、長寿命化に当たり、もう少し施設の充実をお願いしたところ、ご配慮いただけているようなので、よろしくお願い申し上げる。

そういう中で、課の名前が変わってきたことは、後退してきているのかと19年間経過を見てきた。市民活動推進課から生活環境課へ。環境要素、これは絶対必要である。地球規模から考えて、市の役割というのはある。しかし、それぞれの地域の活性化、丸亀市の活性化

ということから、生活、市民との触れ合い、これにかなり力を入れて欲しい。

具体的に言うと、地方自治と地域自治。地域自治は合併によって広くなって隅々まで手が届かないから、地域コミュニティの役割ということで、地域の課題は地域で解決せよ、ということだが地域自治の大変さというものがある。地域は地域課題が本当に広く限りがない。昔の村役場のような役割を重ねているので、先ほど市長からお話があったが、市民総合センターをどの位置に置くかということをはっきりしていただきたい。

市民総合センターにいく相談が、全てコミュニティにくる。地域の人は直接センターに行かない。なので、市民総合センターは証明をするところか、証明事務をするところか、相談をするところか、それもふれあいの場か？

ふれあいの場といえばコミュニティだが、相談もコミュニティ。「それは市民総合センターの窓口に」と言っても、電話など全てここにくる。この状況を理解して、市民総合センターの立ち位置をしっかりと研究して欲しい。地域住民にとってここが窓口。だから地域包括に関係するものも全てここにくる。生活のこういうことに困っているという声があったら、それはケアマネージャーにお願いするものか、プロの立場か、それとも包括か。包括の方も指導してくれる、社協の方も指導をしてくれるが、実際に実践するのはどこがするか。包括は、ケアマネージャーの指導はやるが、実践活動というのは、高齢者の移動手段なども、やはり地元の人が動いている。そこの地域の実態把握をしっかりとしなければ、地域課題は解決できないと思う。

そういう中で、指定管理の 4 期目が来年で終わり次の 3 ヵ年に入る。指定管理の中ではっきり書いているのは、指定管理料は施設管理と職員の人件費。それ以上はしてはいけないような感じを指導している。それでは、地域課題を誰が解決するのか？一般管理運営費は、人口割、世帯割、均等割、各推進費、連合自治会事業費等、全部で 250 万ほど助成いただいている中で、140～150 名のボランティアが活動してもらい運営している。

指定管理料もいただいているが、そこの指定管理の業務に企画職員の研修というのをはっきり書いてあったが 1 回もしたことがない。研修もできていない、そういうことでいいのか。市の企画立案について協力義務があると書いており、仕事はくるが、企画立案ということに対しては、相談は別に我々にはなくて当然だが、そのような状態。

指定管理の業務というのはあまりに固定しすぎて、今度の監査も一緒である。帳面で合っているか、余分なお金は出していないか、それから職員は働き過ぎていないか、それだけをきちっと監査する。1 円も間違えずに使って当たり前のこと。しかし、本当に地域課題は何があるのか、その地域課題解決に向けて何をしているか、というようなことに、しっかり担当課は目を向けなければいけない。ずっと昔から言っているが、“市長から自分がその仕事を任されたから、私が一生懸命にやらなければいけない。それは市民のために、私が市長から頼まれてやっている”そういう気概が見えない。そういう気概がなければいけないし、職員の指導をしなければならない。そうでなければ、地域課題は解決できないし、地域力をもっと発揮できるようにしなければならない。そこが、私は一番欠けていると思う。合併後、

ずっと見てきて、だんだんそれが落ちてきている。だからこの部分は、私の代わりにあなたに仕事を頼んでいる、だから自分が与えられた仕事を全うするという気概を、市長の力で職員に植え付けて欲しい。

地域課題は少子化問題だけではない。地域とともにある学校づくりということで、地域学校協働活動、学校の先生方で及ばぬ力は、地域の総力を持って学校支援をしていくということがなければいけない。そして地域力を発揮するには、専門性が必要ということで、研修の機会を作ってほしい。

それから、今 1 番力を入れていることは、新しい公園をどう活用していくか。それが建設に応える地域の役割である。管理はもちろんだが、公園の利用の仕方についてプロがいたら教えて欲しい。そこへ勉強に行く。コミュニティセンターと公園との一体的活用を、どういう風にしたら本当にモデル的な公園の活用ができるか。せっかく作ったものなので、しっかり活用していかなければいけない。そういうことをずっと感じてきた。

それから、指定管理と一般管理運営費で、一般管理運営といったら積算の一覧表があって、これに対して何十万、合計いくらですということで、1 つだけ 3 年ぐらい前に地域課題解決費分で 30 万を一律に入れてくれた。例えば以前、高松の方に視察に行ったら、1 つの事業をやって成果を上げることに対しては 100 万、お金の問題ではないが、やはりそのようなメリハリをつけなければ地域課題いうのはなかなか解決できないと思う。

課題を解決するには、人の確保が必要であり、また、職員も下の人だけがコミュニティに足を運んで来るのではなく、上の人がこの仕事は市長に代わって私がしなければいけないということであれば足を運ぶ。ここの地域課題は何かということで、事務職の責任者や会長と十分話し合い、そこに住んでいる人が何を必要としているかということを上の人が理解することから始まらなければできないと思っているし、血の通った行政はできない。それをずっと、自分が毎日携わる中で感じてきている。まずは地域課題をそういう意味で、やはり私が市長からこの仕事を任されたということを、地域とともに真摯に考えてやってほしいと思っている。生活環境課とせっかく名前をつけているのなら、やはり市民活動があって、環境は本格的に取り組まなければいけない専門的な部分であるが、地域との触れ合い、それぞれの地域に活力を与えることによって、市全体の活性化に繋がっていくこともひとつ考えて欲しい。実際にはそういういうことをすることによって、地域理解が膨らんでいくし、市とのコミュニケーションがより深まっていくのではないか、それが市全体の活性化に繋がりはしないかとずっと思ってきた。以上である。

（市長）

今言われたことは、十分私も職員も頭にしっかり入れて今後取り組んでいこうと思う。

まず、やはり人である。会長が言われたように、人材をどう確保するか、いい人材をどう育てるかということが本当に大事だと思っている。それともう 1 つ、その人材と人と人との繋がりがあって初めて、行政というのは成り立っていくので、特にこれだけ多様性があって、いろんな面で複雑なこの時代を乗り超えるには、人と人との繋がりをどうきちんと考えて

いくかだと思い、今日はそのことを言われましたので、また心強く思っている。
今の市の方向としては、新しい市民会館と生涯学習機能を合築した建物を建てるが、その中に児童館も入れるということにした。これからの時代にも児童館の役割は本当に大事だと思っており、飯山の児童館は本当に良い児童館で、今度、予算をつけていろんな改修等を行い、今後も充実させていきたいと思っているが、今しばらくお待ち願いたい。
コロナ禍の中でボートレースの収益が特別良く収益等が上がったが、そのボートレース場が 250 億をかけて施設改善をするという計画も立てられており、そのすごい金額を昨年度ボートレースの方には基金として積み立てが終わったところである。それ以外の給食費の無償化や医療費の無償化、これができたのも次世代教育基金をボートレースから 50 億円繰入したお金を基金にしてできた。
そういった形で、今のいろんなまちづくり、大体皆さんが知っているようなまちづくりに結構お金を投資しているが、1 つだけ予定外のことが物価高騰。建築土木の物価高騰が 1.3 倍から 1.4 倍とかになっている。市長になって、公共の建物、特に学校関係の建物は必要なら前倒しでやっていこうという気持ちで指示していたが、費用の例をひとつ挙げたら、城東小学校の改築に 40 億円かかる。市長になった時そう聞いて、それまでは 40 億あったら 2 つの学校の改修が出来ていたが、40 億円もかかると言っていたのが、もう 50 数億円。
これも 1 つの例であるが、学校は今 5 つ、6 つ前倒しでやるということで取りかかっており、そこに予想以上の費用がかかるということで、なかなか思うように予算を組めない。
今もまだ予算ヒアリングで最終の大詰めであり、どれを削るかを一生懸命やっている状態ということを頭に入れてもらって、しかしながら、やらなければいけないところには予算を割いてでもやっていこうと思っている。
今会長が研修はもっと大事にちゃんとやっていかなけなければいけないことと、その地域課題を市の職員の幹部もしっかりと現場で頭に入れるということも、事あるごとに話をしていきながら、地域づくりは職員みんなで取り組んでいこうと思っている。回答にはなっていないが、今日はすごくいい話をしていただいた。

３．第 2 部　テーマ選択方式による意見交換

（所長）
予定の時間が来てしまい 2 部の方に入れそうにないので、またこちらの高齢者との関わりというところで資料作っており、飯山南の取組 5 点ほど書いているので目と通しておいていただきたい。
（市長）
時間が短いが回答をしたい。地域福祉について、高齢社会の真っただ中に入っていっており、これがまだまだ進む。そんな中で、地域福祉をどうとらえていくかというのは、その地域の支えあいということが 1 つのキーワードになると考えている。

全国的に取り組む、丸亀市もこれからも取り組むところが、言葉で言えば重層的支援体制。平たく言うと、1 つの団体がその福祉、言えば高齢者を支えるとかではなく、何個もの団体、人達が一緒になって、その 1 人の高齢者を支える形を取っていくこと。要はよくあるのが行政に行って相談したら、これはうちの課じゃないので何々課へ行ってください。現実これはかなりあって、私もずっと議員をしていたので、くるくる回されたこともあるが、それがないようにしていこうということも 1 つの重層的支援体制であり、1 人の人を支えるのに何個かの団体、これも行政の課だけではなくて、そういう体制を作っていくことをずっとやっている。これもやはり、先ほども言った人と人との繋がりだと思っている。その担当の人間、そこの部長、課長がどういうふうに考えるかということが大事で、あとはもう人と人との繋がりをきちんと大事に保っていく、多様性のある複雑な時代になればなるほど、結局は人と人だということを、丸亀市行政としてもしっかりとそのことを念頭に置いて仕事に取りかかっていきたいと思っている。短い言葉ではっきりしていませんが、どうぞよろしくお願いしたい。

（会長）

重層的とか重そうで、私は地域共生社会ということでずっと言っていたが、この前社協の会に行って重層的と言われて重たそうだなぁと思った。

（市長）

地域共生社会、これはその通りである。言葉として国の方から重層的支援体制という言葉がきているので、使わせてもらったが、何かと言ったら、1 つの団体が支援するだけでなく、重なって支援をするということである。

（所長）

コミュニティ副会長のあいさつで閉めたいと思う。

（副会長）

松永市長。それから、真鍋議員、竹田議員。大切な時間を長時間にわたって、本会のために時間を割いていただいた。本当に濃厚な時間で、いろんなこれからの行事を進めていくときの示唆的なことの助言や、ご指導いただき本当に感謝申し上げる。

私達のコミュニティ組織というのが高齢化してきて、若い後継者の方を考えなければいけなという状況にはあるが、差し当たっては第 4 次計画に向かって基づいた内容を検討したり、工夫をしながら質を落とさずに、地域の多くの方々が参加できるようなコミュニティ活動ができたらいいかなとは思っている。今まで以上の市からのご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げる。

また各部長さんにおきましては、今まで通りコミュニティ行事に関しては各部でも助け合いながら、今までもスムーズに和やかにやってきたと思うが、それが続いたらいいかなと思っているので、皆さんのご協力もよろしくお願いする。